

『入選』

性別なんて関係ない

稻枝西小学校 五年

西田 寧花 さん

私は、この人権週間で、性別について深く考えた。これまで人権について考える時間には「男の子だってピンクが好きだっていいよね。」と当たり前に思っていた。そしてこれをおかしいという人のことを「ひどい。」と思つていた。

子が、かわいいゆるキャラが書いてある下敷きをもつてきているのを見た。これを見て私は思わず、「えっ。」と声が出た。私は自分が信じられなかつた。なぜ、人権について考える時間には「おかしくない。」と思つていたのに、今

「少し変だな。」と思つてしまつたんだろう。でも私が「えつ」と声を出しているとき、周りにいた男子は「〇〇そういうのが好きなんや。いいやん」と言つてその子をほめていた。私は、人権の時間に出てきた意地悪な友達と同じことをしていることに気付いた。そして自分の理解の足りなさに恥ずかしくなった。

た。そのままテレビを見てみると、「一人の女性消防士が映つた。その人は、「誰に何と言われよう」とこれは私がやりたいことだから。」と言つた。私は、とてもかつこいいと思つた。そして日本にももつとそういう人がふえたらしいなと思った。

家で人権について考えて
いた時に、四年生の時の出来
事を思い出した。それは、テ
レビで「消防士をしている人
のグラフ」を見ているときだ
った。内容は消防士の男女の
比率のグラフだった。見てみ
ると、男性の割合が半数以上
で女性の割合はとても少な
かつた。なぜ女性の割合は少

ないんだろう。それは、私たちが勝手に消防士といえば男の人でしょ。女性が働きにくくしているからだと思つ